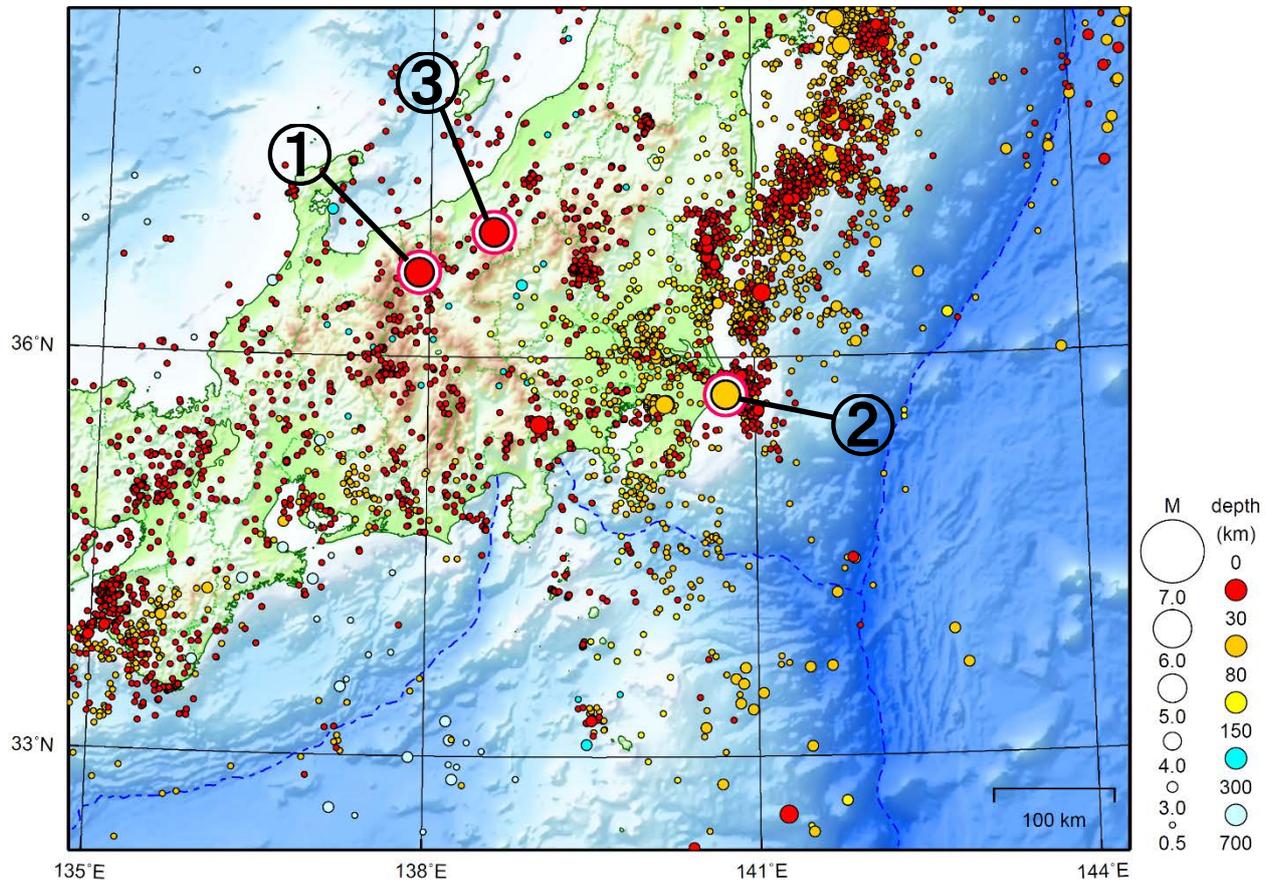


# 関東・中部地方

2018/05/01 00:00 ~ 2018/05/31 24:00

N=5875



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 5月12日に長野県北部でM5.2の地震（最大震度5弱）が発生した。
- ② 5月17日に千葉県北東部でM5.3の地震（最大震度4）が発生した。
- ③ 5月25日に長野県北部でM5.2の地震（最大震度5強）が発生した。

（上記領域外）

5月6日に鳥島近海でM5.7の地震（震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

# 5月6日 鳥島近海の地震

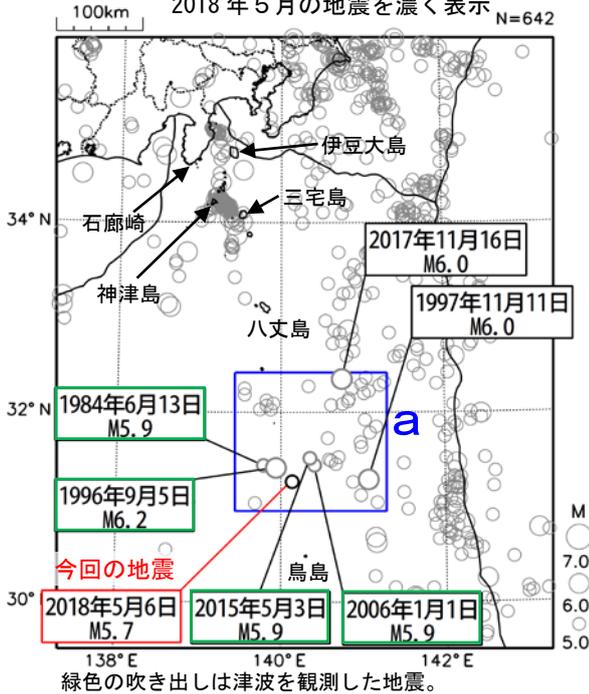
※情報発表に用いた震央地名は「八丈島東方沖」である。

2018年5月6日15時03分に鳥島近海でM5.7の地震（震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。この地震は、フィリピン海プレートの地殻内で発生した。気象庁はこの地震に対して、同日15時20分に津波予報（若干の海面変動）を発表した。この地震に伴い、東京都の八丈島八重根※1で0.3mの津波を観測したほか、伊豆諸島と静岡県で微弱な津波を観測した（下表）。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M6程度の規模にも関わらず津波を観測した地震が時々発生しており、2015年5月3日の地震（M5.9）では八丈島八重根で0.6mなどの津波を観測した。

今回の地震の発震機構（CMT解、下図）は、これらの津波を観測した地震の発震機構と比較的良好に似ている。

震央分布図  
(1980年1月1日~2018年5月31日、  
深さ0~100km、M≥5.0)  
2018年5月の地震を濃く表示



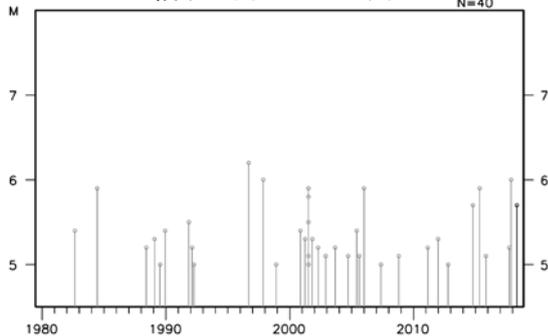
各津波観測施設における今回の地震の津波観測値

都道府県	津波観測施設名	所属	第一波		
			到達時刻	発現時刻	高さ (cm)
東京都	伊豆大島岡田	気象庁	6日 -	6日 16:48	5
	八丈島八重根 ※1	気象庁	6日 15:-	6日 15:49	0.3m
	神津島神津島港	海上保安庁	6日 -	6日 16:44	9
	三宅島阿古	海上保安庁	6日 15:-	6日 16:01	6
静岡県	南伊豆町石廊崎	気象庁	6日 -	6日 17:03	4

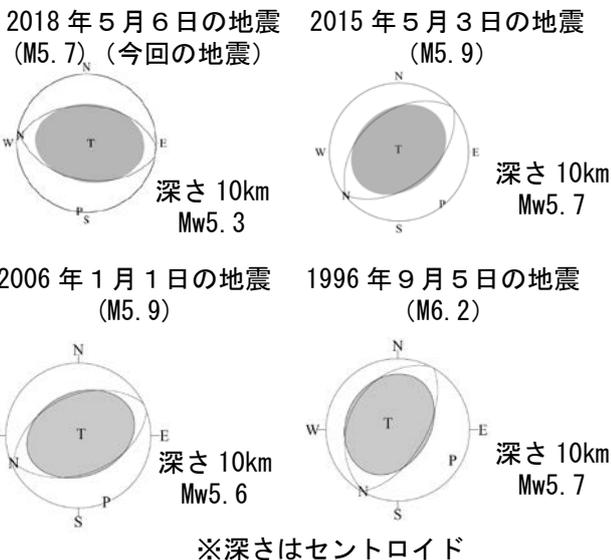
—は値が決定できないことを示す。

※1 八丈島八重根は巨大津波観測計により観測（観測単位は0.1m）。

領域 a 内の M-T 図

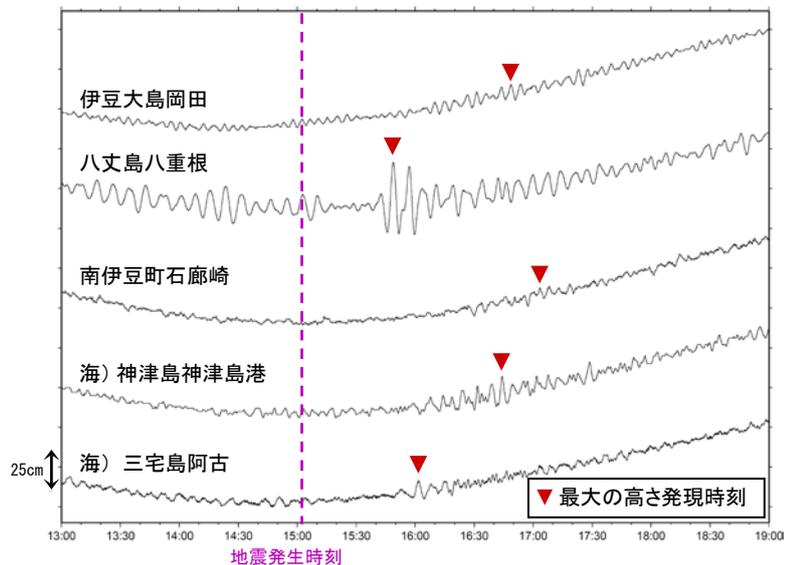


今回の地震及び今回の地震の震央周辺で津波を観測した地震の発震機構 (CMT 解)

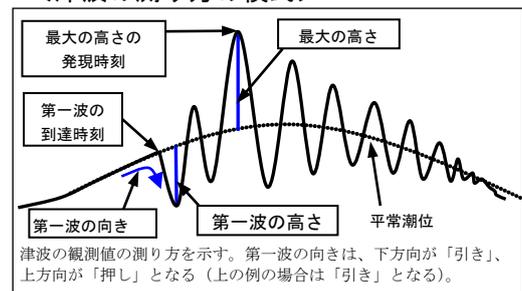


※深さはセントロイド

各津波観測施設の津波波形



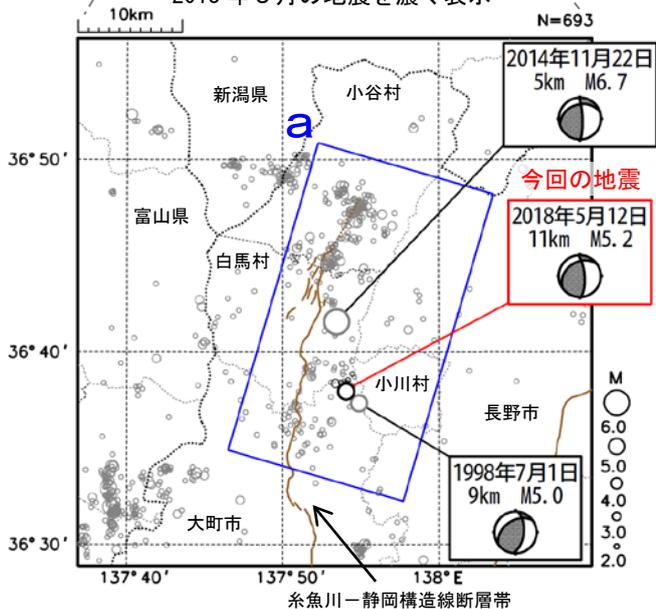
＜津波の測り方のモード＞



# 5月12日 長野県北部の地震



震央分布図  
(1997年10月1日～2018年5月31日、  
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$ )  
2018年5月の地震を濃く表示



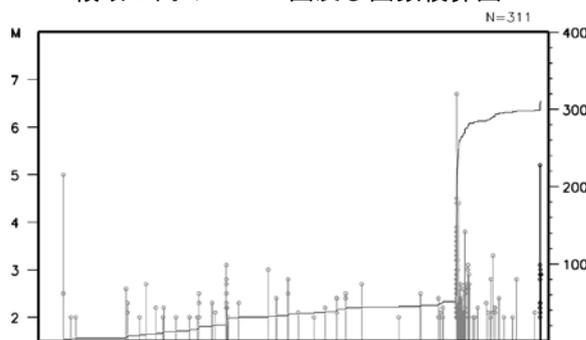
図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

2018年5月12日10時29分に長野県北部の深さ11kmでM5.2の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震は、地殻内で発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型である。

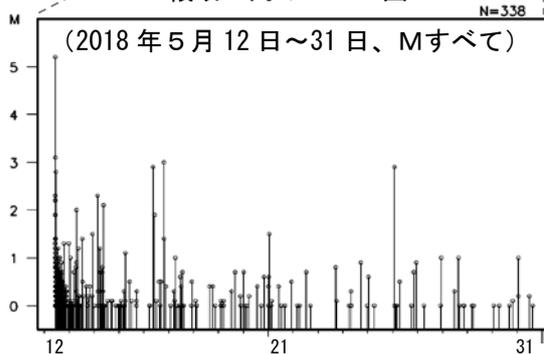
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域a)では、1998年7月1日にM5.0の地震(最大震度4)の地震が発生している。また、2014年11月22日にM6.7の地震(最大震度6弱)が発生し、負傷者46人、住家全壊77棟などの被害が生じた(被害は、総務省消防庁による)。この地震は、神城断層(糸魚川-静岡構造線断層帯の構成断層のひとつ)の北部で発生した(「糸魚川-静岡構造線断層帯の長期評価(第二版)」による)。

1923年以降の活動をみると、今回の震央付近(領域b)では、1986年12月30日にM5.9の地震(最大震度4)が発生している。また、領域bの周辺で1965年から発生した「松代群発地震」では、負傷者15人、住宅全壊10棟などの被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

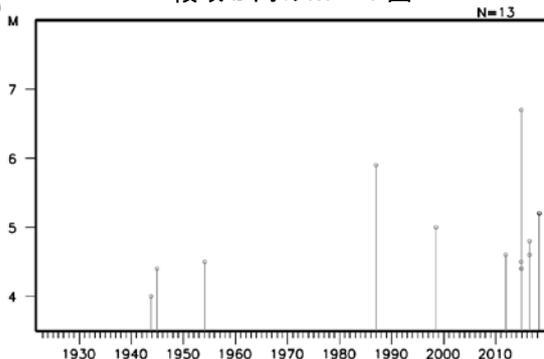
領域a内のM-T図及び回数積算図



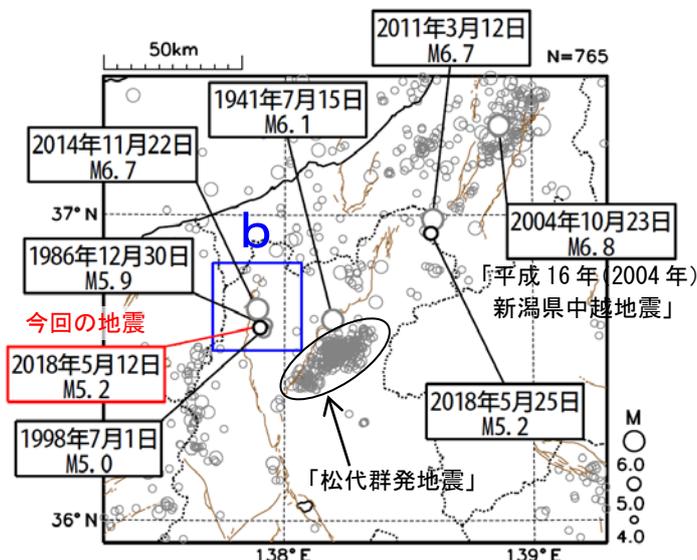
領域a内のM-T図



領域b内のM-T図



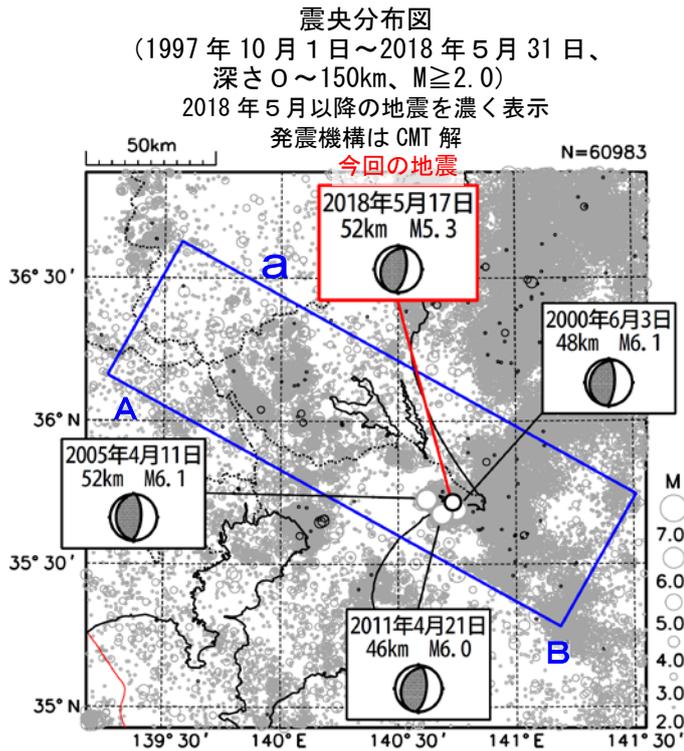
震央分布図  
(1923年1月1日～2018年5月31日、  
深さ0～100km、 $M \geq 4.0$ )  
2018年5月の地震を濃く表示



図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

# 5月17日 千葉県北東部の地震

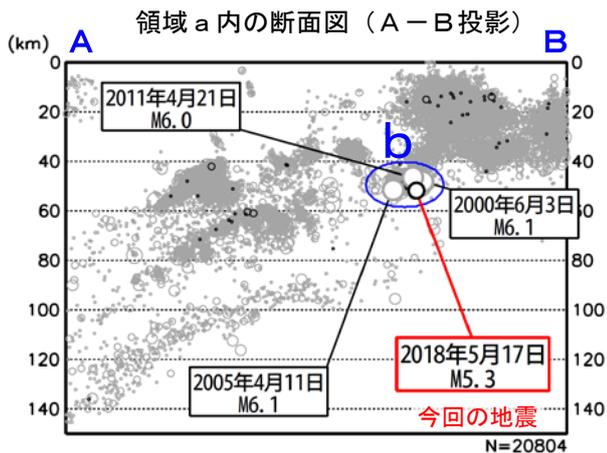
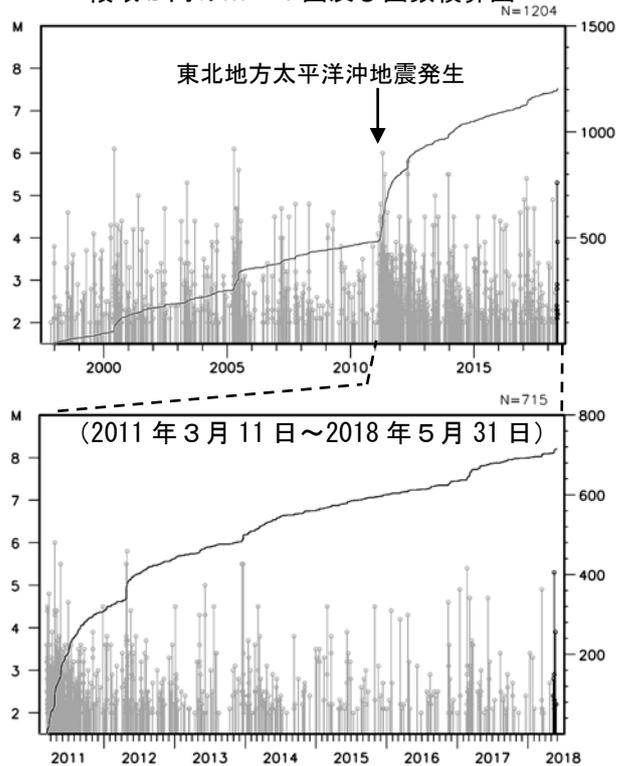
※情報発表に用いた震央地名は「千葉県東方沖」である。



2018年5月17日12時12分に千葉県北東部の深さ52kmでM5.3の地震（最大震度4）が発生した。この地震は発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）は、M6程度の地震が時々発生している。東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動がより活発になっている。

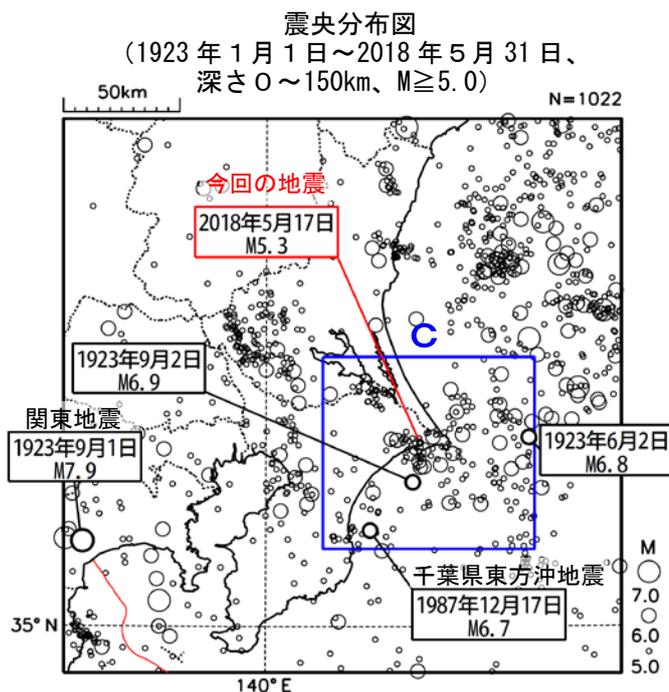
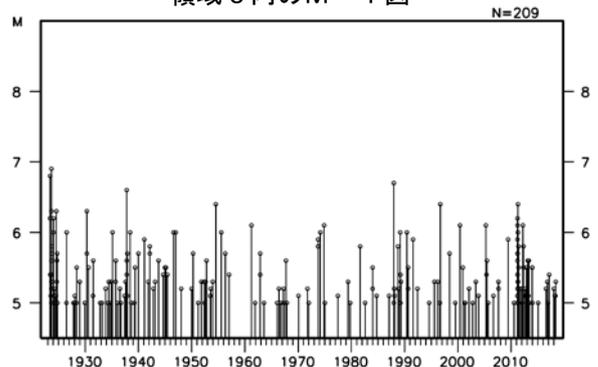
領域b内のM-T図及び回数積算図



2018年5月17日12時12分に千葉県北東部の深さ52kmでM5.3の地震（最大震度4）が発生した。この地震は発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6程度の地震が時々発生している。1987年12月17日にフィリピン海プレート内部で発生した千葉県東方沖地震（M6.7、最大震度5）では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家半壊102棟、住家一部破損72,580棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

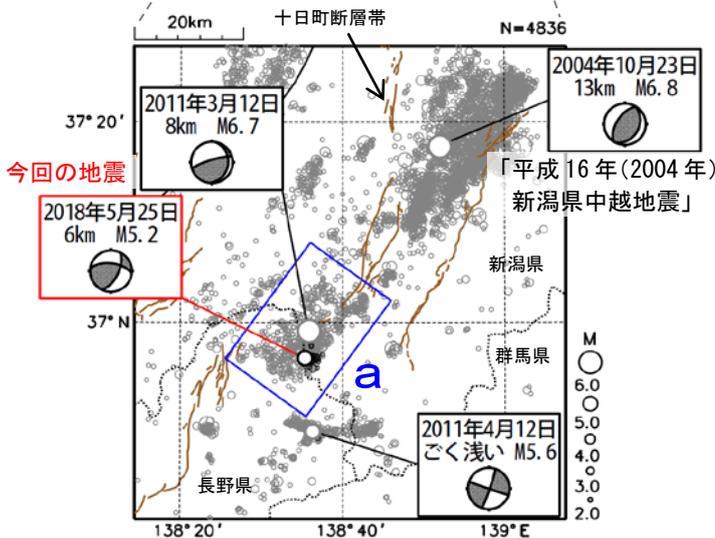
領域c内のM-T図



# 5月25日 長野県北部（長野県・新潟県県境付近）の地震



震央分布図  
(1997年10月1日～2018年5月31日、  
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$ )  
2018年5月の地震を濃く表示



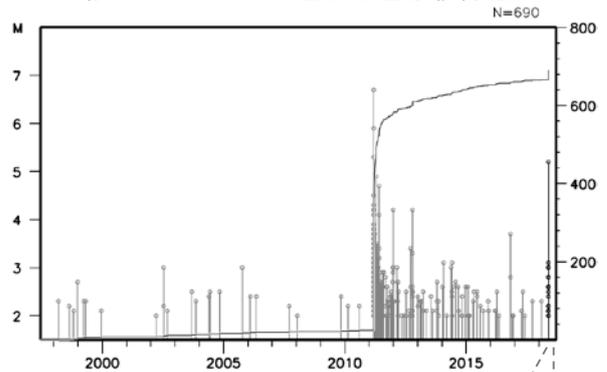
図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

2018年5月25日21時13分に長野県北部の深さ6kmでM5.2の地震（最大震度5強）が発生した。この地震は、地殻内で発生した。発震機構は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。震源は、十日町断層帯の南端付近に位置している。この地震の発生後、5月31日までに震度1以上を観測する地震が17回（最大震度3：1回、最大震度2：6回、最大震度1：10回）発生するなど、地震活動が活発となった。

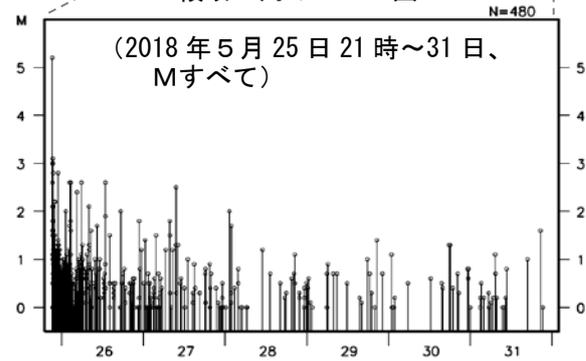
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では、2011年3月12日にM6.7の地震（最大震度6弱）の地震が発生し、6月頃にかけて活発な地震活動がみられた。また、今回の地震の北東では、2004年10月23日に「平成16年（2004年）新潟県中越地震」（M6.8、最大震度7）が発生している。

1923年以降の活動をみると、今回の震央付近（領域b）では、2011年3月12日の地震（M6.7）が発生するまで、あまり地震活動がみられていなかった。

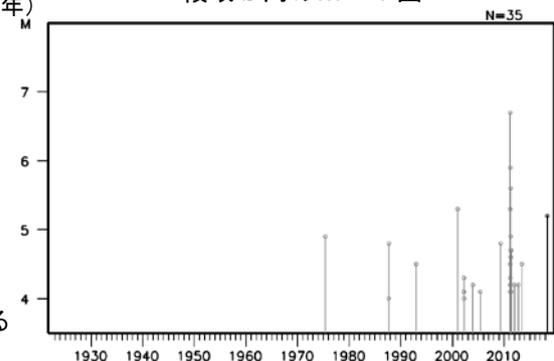
領域a内のM-T図及び回数積算図



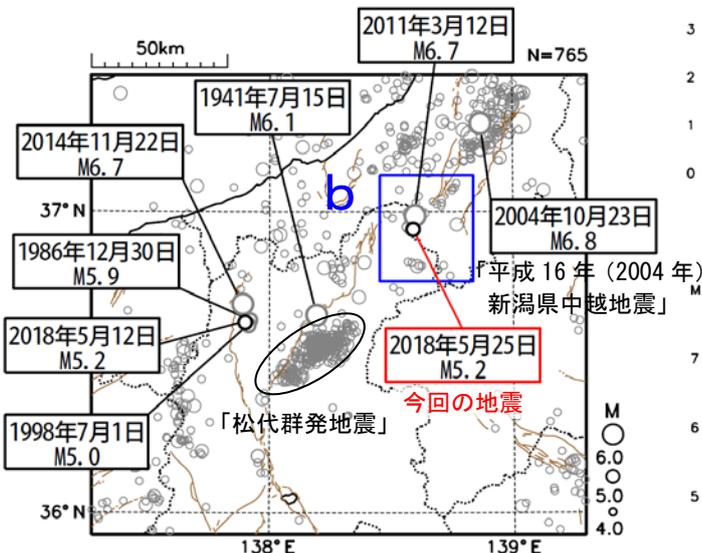
領域a内のM-T図



領域b内のM-T図



震央分布図  
(1923年1月1日～2018年5月31日、  
深さ0～100km、 $M \geq 4.0$ )  
2018年5月の地震を濃く表示



図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。